

## 「世界道路交通被害者の日、北海道フォーラム 2023」参加者の感想

回答38人（参加者数：56人）

### フォーラムの内容について

◆大変良かった：29人 ◆良かった：7人 ◆普通：0人 ◆あまり良くなかった：0人  
無記入：2人

### 感想抜粋

- ★ フォーラムに初めて参加し、会員の方の生の声を聞いて、改めて交通事故というものが人の一生を大きく狂わす結果となるものということを認識しました。  
白岩先生の講演がとても参考になりました。社会心理学、行動インサイトが今後の交通事故抑止にとても必要であることが理解出来ました。今後ともこのような活動を継続していただく事はとても重要だと思い、私も事故ゼロを実現できる社会になるよう、力になりたいと感じました。
- ★ 飯田様、ポタサニャー様の当事者のお話は心をうつものでした。白岩先生の講演は、会の要望が社会心理学に裏付けられていることを明らかにする大変興味深いものでした。
- ★ 被害者の方のお話を聞かせていただき、加害者が交通違反を重ねていた上に事故を起こした事を知りました。判決で罪の軽いことに、命の重さを軽く考えられているのかと思いました。
- ★ 交通事故死傷ゼロへの願いを込めて、辛いお話をして下さったお二人の想いを感じ、改めてクルマ優先社会からの根本的転換を求める取り組みに微力ながら協力していきたいと思いました。  
白岩先生のお話もとても興味深いお話でした。環境へのアプローチをする事で、交通死傷をおさえる事が可能であることも良く分かりました。日本も早く外国のレベルになってくれる事を切に願います。
- ★ 社会心理学の話がとても勉強になりました。環境面からのアプローチは、非常に有効であり、会の活動で以前より訴えていたことと合致していることがわかりました。車の標準装備も、だんだん変わってきたとは思いますが、道路、信号の方も早く整えてほしいと思います。
- ★ 交通事故は、起こす個人の不注意、無自覚だと思っていましたが、それに加えて社会心理学的にも見直せるということが分かりました。歩車分離信号について、交通事故被害者の会の方からの提言、研究もありながら中々進まないのが不思議です。こんなに車社会といわれて久しいのに、車を使う側と歩道を使う側、どちらにとっても安全なことだと思うのですが。
- ★ 基調講演と被害者の訴えで、交通死傷ゼロが実現可能であると確信しました。それには、行政、北海道交通事故被害者の会、各関係機関、自動車メーカー等の相互の努力が必要ですが、是非実現されることを願います。
- ★ 歩車分離信号の大切さを初めて知りました。ビデオを見て、とても危険だと感じました。
- ★ 基調講演「行動科学からのアプローチ」をととても興味深く聴きました。人間はミスをする動物である、環境を変える視点、この事で少しでも交通事故がゼロに近づくことを祈らずにはおられません。  
歩車分離信号についてもその必要性の声を行政に届けなくてはなりません。
- ★ 社会心理学、行動科学の側面からの対策は、遵法意識がほとんどないような悪質な運転手を含めて有効だと分かった。ただし「交通死傷の問題が深刻だ。対策が必要だ」という世論がないと進まないの、世論を拓げる取り組みや教育が常に大切だと思った。  
歩車分離信号の交差点に変える作業は、信号の制御と、少しの標識を設置するだけで可能で、予算もあまり必要無いので、行政の担当者は事の深刻さを知って、直ぐ実行して進めてほしい。自分も交通死傷ゼロを求める発信を、一市民としてがんばりたい。
- ★ 会の活動の社会的意義が学問的に裏付けられたと思う。速度の大きいクルマと力の弱い歩行者が交差する構造は非常に危険である。青信号で渡っているにも拘わらずクルマの存在を疑いながら渡ることになる状態は非常にストレスだ。歩車分離信号の設置を拡大すべきである。
- ★ 白岩さんの講演で、人間はエラーを起こすものだから、環境へのアプローチが有効だという話は本

当にそうだなと思いました。今回のフォーラムを通して、交通事故死を「減らす」という視点ではなく、「無くす」という視点で考える必要性を痛感しました。来年も是非参加させて頂きたいのと、先ずは自分でもできる運転時の意識を今まで以上に心がけます。

- ★ 白岩祐子先生のお話が、分かり易くためになりました。社会の価値観の変革が急がれると思います。「やるか、やらないか」これを合言葉にしたい。
- ★ 被害者の方のお話を聞き、次に白岩さんの講演で、交通死亡ゼロにするため社会的環境を変えていくことを具体的に聞くことができ、少しでも自分にできることをやっていきたいと改めて思いました。このフォーラムを継続されている会員の皆さまのお力もすごいなと思いました。

以上